第 209 号　・・・めでぃかすとる・・・　平成21年9月15日発行

めでぃかすとる Médicastre

「　サワギキョウ　」

鶴岡地区医師会　H 21年　9 月号

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日　時：平成21年８月12日㈬
場　所：医師会３階講堂

『 肺がん検診の現状と課題：胸部ＣＴ検診を中心に 』

金沢医科大学呼吸器外科教授
佐　川　元　保 先生

胸部ＣＴ検診はＸ線では発見できなかった小さな肺がんでも発見可能であることから、新しい肺がん検診として脚光を浴びている。確かに大変有望な検診法であるが、単に多く見つかれば良いというわけではなく、上滑りでなく慎重に進める必要がある。

胸部ＣＴ検診の方法は、日本ＣＴ検診学会や日本肺癌学会が中心となり、標準的な方法がホームページや肺癌取扱い規約等で公表されている。撮影はシングルあるいはマルチ・ディテクターＣＴによって、１回の呼吸停止下に全肺野を撮影することを原則とし、読影はフィルム、ＣＲＴ、液晶モニターのいずれでも可能である。放射線被曝については、たとえ低線量で撮影されたとしても胸部単純撮影に比べればはるかに大きいが、マルチスライスの導入もあり、最近はかなり改善されている。通常の臨床条件の線量は、線量ＣＴに比べ吸収線量で約８倍、実効線量で約３－４倍という非常に高い被曝線量であるため、検診には推奨されない。また、同様に被曝の問題から40歳未満には行ってはいけない。

胸部ＣＴ検診では、非常に多数の陰影が発見され、これらのすべてに対して精密検査を行うことは、「偽陽性」が増え好ましくない。100％すりガラス状を呈するような陰影は、仮に肺癌であったとしても増大速度が非常にゆっくりしており、無治療で観察することも選択肢の一つになり得る。日本ＣＴ検診学会では発見陰影のマネジメントに関するアルゴリズムをホームページ上で公開している。

胸部ＣＴ検診による肺癌発見率・発見肺癌の病期Ｉ期割合・発見肺癌の生存率はいずれも驚異的に高いが、バイアスが存在するために肺癌による死亡が本当に減少しているかどうかは明らかでなく、ＣＴ検診に効果があるとは未だ確定していない。日本では厚労省中山班が、胸部Ｘ線受診群を対照群とした胸部ＣＴ検診受診群の肺癌死亡および全死亡の相対危険度を算出するべくコホート研究を遂行中である。その他、国内外でいくつかの無作為化比較試験が遂行あるいは計画中である。

効果が不確定であることからも、精度管理は絶対的に重要である。胸部ＣＴ検診における精度管理としては、「機器（撮影機器・読影機器など）」「技術（撮影技術・問診技術・読影技術など）」「情報（要精密検査例のフォロー・発見肺癌例のフォローなど）」のそれぞれに関して適切な精度管理が行われなければならない。また、受検者に対する利点と欠点を適切に説明したインフォームドコンセントは、これからの時代において必須である。

肺癌は本邦でのがん死亡のトップとなっており、それを解決する手段としての胸部ＣＴ検診への期待は大きい。しかしながら、現状ではまだ発展途上であり、効果評価や制度設計に関する地道な研究を一つずつ実施していくことが重要である。

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日　時：平成21年８月29日㈯
場　所：東京第一ホテル鶴岡

『 新型インフルエンザ大流行（パンデミック）に対する事前準備と緊急対応 』

国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター長
田　代　眞　人 先生

[鳥インフルエンザと豚インフルエンザ]

Ａ型インフルエンザは渡り鳥を起源とし、家禽、ブタ、ヒトなどを自然宿主とする人獣共通感染症である。自然界の鳥ウイルスは弱毒型で、腸管と呼吸器の不顕性感染だが、Ｈ５とＨ７亜型では遺伝子変異によって強毒型に変化する場合があり、全身感染で100％の家禽を殺す。ブタは鳥とヒトのウイルスに感受性をもち、新型インフルエンザ出現に中間宿主の役割を果たす。季節性インフルエンザウイルスは、鳥由来の弱毒型ウイルスが直接またはブタを介し、遺伝子変異でヒト型に変化し、新型インフルエンザ大流行を起こしたものの子孫である。ブタウイルスは弱毒型で、呼吸器感染症「インフルエンザ」を起こす。

[高病原性Ｈ5Ｎ1鳥インフルエンザの流行]

５年前に東アジアから始まったＨ5Ｎ1高病原性鳥インフルエンザは東南アジア、中東、ヨーロッパ、アフリカへ拡大中である。病原性が特に強く、家禽や野鳥、ネコ、トラなどの哺乳動物にも致死的全身感染を起こす。トリ型ウイルスなのでヒトへの感染は稀だが、500人の感染患者が確認されている。小児・若年成人が90％を占め、不顕性感染は殆どない。主な症例は重症肺炎だがウイルス血症で全身感染に至る。ウイルス感染に対する過剰防御応答（サイトカインストーム）で多臓器不全が生じ、致死率は60％を超える。ヒトのＨ5Ｎ1鳥ウイルス感染は、呼吸器局所感染であるインフルエンザとは異なる重症全身性疾患である。

[新型インフルエンザ大流行]

鳥や豚のインフルエンザウイルスが、人の間で効率よく感染伝播するヒト型ウイルスに変身すると、世界的な大流行となるなり、大きな健康被害と社会的影響がでる（パンデミックインフルエンザ）。現在の豚由来のＨ1Ｎ12009を含む過去の新型インフルエンザはすべて弱毒型鳥ウイルス由来で、病気は「インフルエンザ」であったが、1918年のスペインカゼでは当時の世界人口18億人のうち約１億人が死亡した。

現在地球人口は68億人に増加し、高速大量輸送など生活環境は大きく変化した。新型ウイルスが出現すれば、短期間に集中的な大流行が起こり、膨大な健康被害と二次的な社会機能、経済活動の破綻が危惧される。特に、医療サービス、交通・物流、食糧やエネルギーなどのライフライン、治安維持などの社会機能の維持が問題となる。

2009年Ｈ1Ｎ1パンデミックは、弱毒型の季節性インフルエンザウイルスに相当する豚ウイルス由来の新型ウイルスによるもので、病気は

「インフルエンザ」である。健康被害も比較的軽度で、アジアかぜや香港かぜ並みの中程度であると予想される。現在まで日本では未だ本格的な大流行にはなっておらず、今後現在までの千倍程度の患者が出ると予想される。それに応じて、重症患者、死亡者数も増え、医療サービスへの過剰負荷と社会的影響がおこる。しかし、最近の新型インフルエンザの本質を見失った軽視傾向と準備不足から、これに対応できないことが危惧される。

一方、H5N1鳥ウイルス由来の新型インフルエンザが出現すれば、強毒ウイルスによる大流行が起こり、過去の大流行とは比較にならない甚大な健康被害と社会的影響という最悪のシナリオとなる可能性がある。H5N1ウイルスは鳥の間で定着しており、現段階で感染患者数も昨年を超えている。インフルエンザウイルスの遺伝子変異はウイルス複製回数に比例するので、鳥での伝播が拡大継続する限り、ヒト型に変身する危険が増える。既にヒト型化に対応する遺伝子変異をもつウイルスも、少なからず確認されている。パンデミックへの準備と緊急対応体制が無い場合には、大きな健康被害と社会的な影響が出る。行政、事業体から地域、家庭に至るすべてのレベルにおける事前準備と緊急対応に対する計画とその実施が必須である。

◇◇

新健診センター建設準備室便り No.8

８月28日に第15回建設委員会を開催し、基本設計について最終協議を行いました。外構計画では設計業者から提案された駐車場の配置案に対し、克念社所有の土地にある既存建物の駐車場スペースを確保するため、敷地東側の歩行者用通路をなくして、１台あたりの駐車スペースを二重線区画の幅2.4ｍで再度計画をすることとし、駐車場内の植栽については今後継続検討を行うことになりました。また、現センターと新センター間の通路は、基本的に検診車は通行せずに業者等が使用するのみとしました。平面図について変更箇所の説明を行ったところ、建設委員の先生から、事務室がワンフロアのため空調効率が悪くなるのではないかというご指摘を受け、設計業者で再度検討することになりました。建物の外観については、東面の受診者食堂・休憩室にあたるカーテンウォールのガラス部分に透明のLow-Eガラスを採用することとし、外からの視界を充分考慮することで基本的には承認されました。また、設計業者から換気設備設置のために天井高を各階100㎜ずつ下げたいという提案がありましたが、建設委員会終了後に職員と協議を行い、１階天井高を2900㎜、２階を2700㎜で再検討してもらうことにしました。消雪の設備計画については、既存井戸を利用した①無散水消雪（玄関回り）②駐車場は除雪車による除雪、それを集めて融雪する方法で承認されました。太陽光パネル発電については将来的にパネルを設置できるように、屋上の基礎工事を本体工事に含めること、太陽光パネルの設置にあたって補助事業がある場合は申請を検討していくことにしました。最後に、今後の工事、契約、手続き等のスケジュールについて確認をし、今後は医療機器の購入時期や機器・備品の新センターへの搬入・移設に伴う健診・検査業務の休止期間についてなど、建設委員会で検討していくことになります。

大切な本・思い出の曲　No. 4

「栄冠は君に輝く」

鈴　木　伸　男

昨日、夏の甲子園が終わりましたが、大会の期間中、開会式や閉会式あるいは試合の合間に大会歌の「栄冠は君に輝く」が流れていました。折も折、思い出の曲としてこの歌を挙げたいと思います。

もともと野球好きであり、日頃は熱烈な巨人ファンであることは自他ともに許すところでありますが、それはさて置いて高校野球はまた格別です。今年はわが出身県の新潟の日本文理高校が見事準優勝の栄誉に輝き、小生の喜びもひとしおでした。

昨夜の９時のＮＨＫの“ニュースウォッチ９”のトップニュースは決勝戦のことであり、そして真っ先に出た映像は新潟県の関川村の祭りの行事のひとこまでしたが、これは日本文理のバッテリーの出身地に因んだものでありました。さらに今朝の新聞の各紙をみても優勝校の中京よりもむしろ日本文理の方が大きくとり上げられていました。これはこれまで野球弱小県の日本文理が当初の予想を遥かに上回って決勝まで勝ち進み、そして決勝戦では古豪の中京を相手に９回裏の２アウトから怒涛のような連打で猛反撃をして６点差を１点差まで追いつめたことが人々の心を打ったのだと思います。

前記の“関川村”は小生の故郷の中条（今は胎内市）の近郷で、小生の高校生の頃はわが中条チームと関川チームはお互いに少年野球のよきライバルであり、そんな縁もあって日本文理はごく身近に感じられ、このたびの快挙は小生に大きな感動を与えてくれました。

ところで、開会式は８月８日に行われましたが、そこで皇太子殿下が挨拶をされ、その中で、ご自身が９歳のとき（昭和44年）にテレビで

観戦した三沢高校と松山商業の決勝戦での延長18回引き分け再試合のことに触れ、「今でも忘れることができません」と述べられ、スタンドから大きな拍手がわき上がりました。小生の思いも同じで、改めて三沢高・太田と松山商・井上の互いに譲らぬ熱投を思い起こしました。

毎年、甲子園での球児たちの汗と涙と数々のドラマに強く胸を打たれていますが、特に昭和44年の決勝戦はあれから40年も経った今でも鮮明に心に刻まれております。そしてその閉会式で両チームがグランドを一周したときに流れた「栄冠は君に輝く」を感銘深く聴きました。

毎年、夏の甲子園のときにしか耳にしない歌ですが、この歌を聴くたびに若さへの郷愁の念にかられ、心の洗われる思いがいたします。

甲子園の幕が閉じて、今年の夏も爽やかな思い出を残して静かに去って行きます。

なお、このたび２首の短歌を詠みました。

ここ数年　災害多き新潟に
準優勝旗　球児あっぱれ

爽やかな　ドラマ続きし甲子園
終わりて庭に　赤トンボ飛ぶ

（09.8.25記）

ＹＢＣラジオ「朝だ！ 元気だ！ ６時半！！」ラジオ出演体験記

すこやかレディースクリニック
早　坂　　直

「楽しく緊張できました」

シ〜ンとした収録スタジオ。スタジオのドアを閉められた瞬間の感想は「若干の圧迫感を感じるほどの静寂」でした。外部から雑音を許さない完全なる防音…その部屋の雰囲気に、何故か、「捕らわれている！」といった妙な拘束感を感じ、予想した以上に緊張が高まりました。事前にFAXでやりとりをしていた放送内容に加えて、子宮頸癌の話題などを幾つかお話しし、世間話も交えて、楽しいおしゃべりが続きます。Ｋディレクター、Ｍアナウンサーそして私の３人が、放送する内容について共通の認識となるように、という段取りであるわけですが、じつはこの時間が非常に楽しく、緊張がほぐれていきました。さすが、プロフェッショナルというか、実に聞き上手な方々でした。特に、「テレビに出演している＝芸能人」的な思考をしてしまう田舎者の私は、「テレビに出ている人と話している…」という非日常に戸惑いつつも、気分が高揚し、緊張よりも楽しい気分が勝ってきました。

収録が始まり、耳にしたヘッドホンから、Ｍアナウンサーと Ｋディレクターの声が聞こえてくると、「ラジオの収録だー！！」という妙な感動を覚え、緊張感が再び高まりました。結局、収録に関しては、私の話術などは発揮されず、Ｍアナウンサーのプロの巧みなリードで、“導かれる”ように順調に進んでいきました。

「収録とは『話を収録すること』であって、音楽などはあとで編集して追加する」ものと思っていましたが、そうではなく、例えば、私の選んだ“好きな曲”を流している間は、生放送のように、私もそれを聞いているのでした。ここでも、Ｍアナウンサーと楽しい“雑談”をしていたのでしたが、これがまた何か「プロっぽい」感じで心地よい時間でした。

今回のラジオ出演は、緊張もしましたが、非常に楽しい経験ができました。Ｋディレクター、Ｍアナウンサーに感謝、感謝です。

医師会ニューフェイス

①氏 名　②所 属　③趣味・特技　④ひとこと

① 上林（かんばやし）　美穂子（みほこ）
② 訪問看護ステーション
　ハローナース
③ 旅行、温泉めぐり
④ 至らない点が多くあると思いますが、よろしくお願いします。

表　紙

「 サワギキョウ 」

石　原　　融

独特な形をしたサワギキョウの花は、羽黒の玉川寺の庭園でも見ることができます。

県内で群生地として知られているのは月山の念仏が原湿原ですが、肘折の登山口から往復７時間ほどかかります。お盆休みに行ったときは花には早く、９月初旬に再訪したときは時期が少し遅かったようで、花の色があせていたのが残念でした。

編　集　後　記

今年は梅雨明けもはっきりせず、夏らしい日も少ないまま、あっという間に秋の気配に変わってしまった印象です。８月の日照時間は平年の７割程度とか。米の作柄も心配です。注目された衆院選は、大方の予想通りの結果で幕を閉じました。政権が代わって政治も代わるのでしょうか？　役者が代わっても脚本家（官僚）が変わらなければストーリーは変わらないという意見もあるようですが。新政権が脱官僚を本当に実現できるのか、じっくり見守りたいところです。

昨今、暗い話題が多い中、日本文理の甲子園での活躍は見事でした。特に中京大中京を驚異的な粘りで土俵際まで追いつめた決勝戦は、球史に残る名勝負といっていいのではないでしょうか。鈴木先生の感動と興奮ぶりも文面から伝わってきます。本当によかったですね。新潟県内の盛り上がりも相当のようで、同校野球部には県民栄誉賞がおくられるそうです。

学校の夏休みが終わり、当地区でも新型インフルエンザによる学校、学級閉鎖がでてきているようです。スーパーや本屋さんの入り口などにも消毒液が設置されるのも目に付くようになりました。感染予防に対する意識は高まってきているようです。しかし、田代先生のご講演にもあったように、今の日本の状況は流行の第一波のほんの始まりであるとのこと。今後の本格的な流行には医師会も団結し、最小限の被害でくい止めるべく、この問題に立ち向かいたいものです。

（渡部　隆二）

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二
発 行 所：社団法人鶴岡地区医師会　山形県鶴岡市馬場町１－34
TEL 0235－22－0136　FAX 0235－25－0772　E-mail tsurumed@jupiter.ocn.ne.jp
URL　http://www15.ocn.ne.jp/~tsurumed/